

# 雷の子

カトリック町田教会  
町田市中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

## いかずちの子



イエスは週の初めの日の朝早く復活して、まずマグダラのマリアに御自身を現された。

(マルコ 16-9) <http://www.machida-catholic.jp/>

### 主の復活の出来事によせて

主任司祭 高木賢一

今年、桜の開花も早く、この原稿が皆さんの目に留まる頃には、桜も散ってしまっているかと思えます。

しかし、暖冬とは言え、やはり、冬は「死」の力が圧倒する荒涼とした「無」の世界を思わせる季節であることに変わりはないでしょう。

ですから、冬から春へと季節が変わる有り様は、神がこの世を創造する時に、混沌の

暗闇に、自らの命の息吹を吹きかけることで、命の秩序を造り上げていった有り様を再現しているようにも思えます。

また、それは、「死」の力を象徴するファラオの圧迫に苦しんだイスラエルの民が、「捕らわれ」の状態から解放されて、再び息を吹き返すと同時に、自らの命を謳歌することができるようになった喜びの時の有り様を想像するのに、

極めて相応しいと言えます。さらに、そういった命の神の究極的な姿が示されたと感じて止まないイエスの死と復活という出来事の記念を、命の息吹を一番強く感じる時期に祝うことも、極めて時宜に適用していると言えるでしょう。

いずれにせよ、聖書の記述を改めて振り返って見ると、そこで繰り広げられている内容は、イスラエルと神の間わりのドラマ、即ち、神が解放者であると分かっていたいながらも、どこかで、「死」の力が華やかに放つ妖しい芳香に魅かれて、神から逃げ出そうとするイスラエルの民と、真の命に引き戻そうとする神との「やりとり」が繰り広げられるドラマであるように思いますが、それは「命とは何か」を考えさせるドラマでもあるようにも思っています。

福音書が伝えるイエスの復活の記述は、イエズスを葬ったはずの墓が空であったという場面から始まります。イエズスの教えに共感して付き従った人々にとって、イエズスの死と復活という出来事は、まさに、創世記が述べる人間の創造物語と重ね合わせて理解することになった出来事であった、新しい人間の在り方がイエズスを通して示された出来事であった、と言ってよ

いでしよう。

即ち、神がこの世を創造する際、何も無い「無」の世界に自らの命の息吹を吹きかけることで、命の秩序を造り上げていった有り様の再現でもあったと理解したからこそ、初代教会の人々は、私たちに何気ない風景の描写に思える「空の墓」の場面を、ことさらに大切にしたいのだと思います。何の意味もなさないようなイエズスの十字架上の死の姿は、各人の有り様を、端的に象徴すると言えるかも知れません。

人間が抱える苦しみや悲しみ、あるいは、痛みや虚しさ、さらには絶望を、身をもって体現しているのが、イエズスの十字架上の姿と言えるのでしよう。

そして、だからこそ、イエズスの復活という出来事は、私たちに深く関わってくるのだと言えます。

と言うのは、「死」の力に押しつぶされそうになった人間の行く末が、この出来事に端的に示されているということになるからです。

その意味で、イエズスの死と復活という出来事は、単に希望を与えてくれる出来事に留まらず、人間が抱える苦しみや悲しみ、あるいは、痛みや虚しさ、さらには絶望を、真

つ正面から受け止め、そういった困難な状況に立ち向かうことができるようになるための励ましと力を、私たちに与えてくれる出来事でもあると言えるのではないのでしょうか。昨今、テレビゲームの影響で、人間は死んでも直ぐに生き返ると思っ込んでいる若者や子どもたちが多いと聞きますが、私たちの復活信仰と彼らの理解は、どこが異なっているかをしっかりと自覚し、それを深めるようにするためには、むしろ、よい試金石になるのかもしれない。

人間が抱える苦しみや悲しみ、あるいは、痛みや虚しさ、さらには絶望を抜きにして、イエズスの復活だけを語るつとする信仰の在り方のままでとするならば、彼らの思考回路と上辺は違っているように見えても、結果的には、人の在るべき姿と取り組むことな、自我は野放図のままという点で、本質的には、「異域同舟」に過ぎないからです。毎年、繰り返される非・日常性を通して垣間見える非・日常性を深く意識することで、命の神への信頼がより深まるように願いたいものです。



運営委員会

助け合い・分かち合い・深め合い

運営委員会議長 久保田 伸



新しく二〇〇九年度の運営

委員会議長を務めさせていただきました。地区は6・1ブロックです。今年一年、新運営委員会のメンバーと一緒に町田教会のスムーズな運営のために努力して参ります。皆さまよろしくお願ひいたします。

今年の運営委員は、新しい推薦方法で、皆さまの身近なところでご推薦いただきました。皆さまのおかげでフレッシュで多彩な顔ぶれのメンバーとなりました。委員の役割分担は運営委員会ニュースに掲載しましたのでご覧ください。

さて、昨年度の運営委員会は、献堂五十周年記念関係の行事と、教会規約の作成で手一杯の状況でした。

今年度は、教会建設の借入金返済も無事終了しましたので、もう少し自由に新しいことに取り組めるのではないかと思います。

たとえば教会の設備をより

使用しやすくとか、教会の運営方法でより皆さまに参加いただけるものにするとかです。これらについては、これから運営委員会でよく検討し、皆さまにお諮りして進めて行きたいと考えております。

わたし自身としては、今年度の基本的な考えとして、「助け合い」「分かち合い」「深め合い」の三つを大切にして運営していければ良いなと思っております。

「助け合い」とは、教会の皆さまの高齢化などに伴い、皆で助け合っているようにしたいということ。また、経済状況が悪いので、教会内外から助けを求められたとき、対応できるようにして行きたいということ。教会にはいろいろな才能や経験をおもちの方がおり、世間の広い方もおられます。そのような観智を生かすことができればと考えます。

「分かち合い」は、教会の皆さん同士が考えや思いを話し合い、理解し合う環境を大切にして行きたいということです。

「深め合い」は、信仰を深める機会をもっと作り、教会共

同体として成長して行けるようにしたいということです。

これについては、幸い今年から養成委員会の立ち上げ準備がはじまります。準備するなかで一緒に考え、深めて行ければと思っております。

他の教会から来られた方から、町田教会は恵まれているとよく言われます。この恵まれていることに安住せず、より実り豊かな教会共同体になりましように、共に心を尽くして参りましよう。

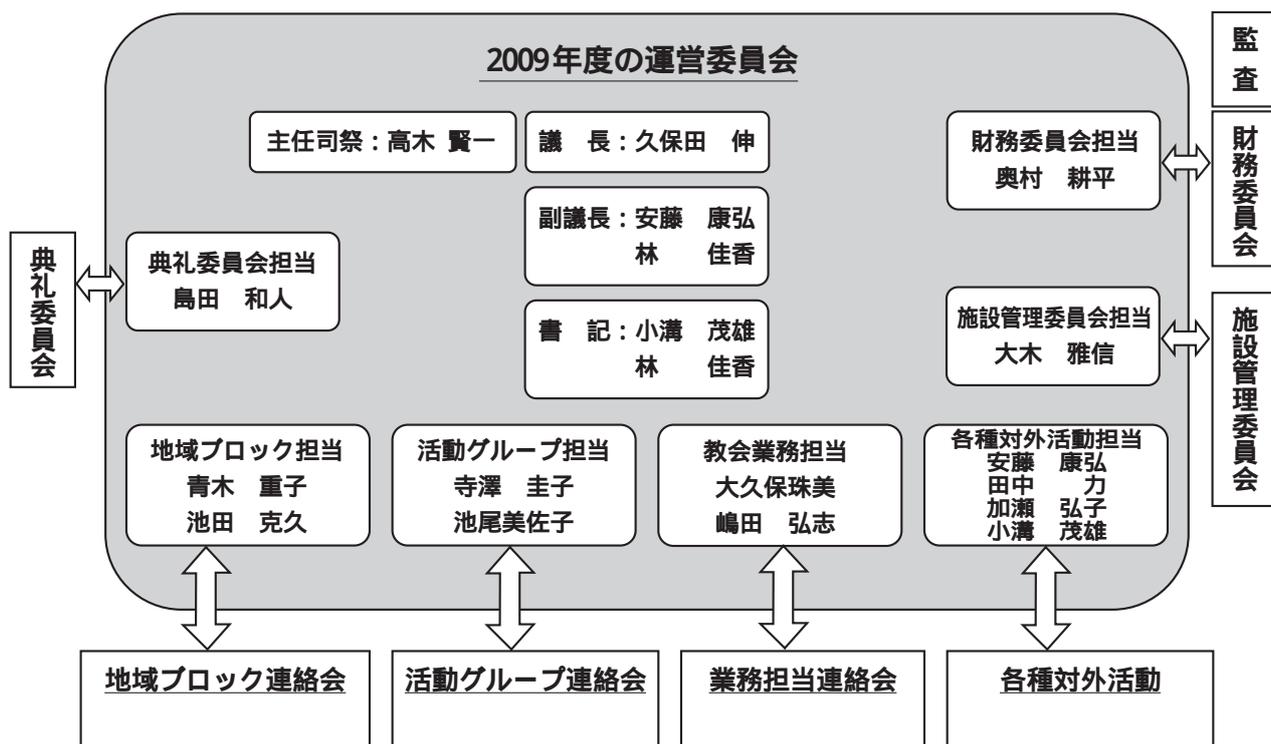
規約生みの苦しみ？

規約作成小委員会委員 水野 貴久子

はじめに「運営規約案」作りに参加された大勢の皆さまに心からお礼を申し上げます。以下私個人の思いを記させていただきます。

町田教会に集う意味と共同体の使命を皆さまと一緒に考え話し合ったこの二年間は、福音宣教の恵みの時であったと感謝しております。

信者総会で「運営規約案」を、さらに続けて検討する時間が与えられました。これから皆さまに、祈りと共に話し合いを重ねて、未完成な部分を補充し、皆が気持ちよく参加でき、皆で助け合って進むべき方向へ改善していただきたいと思ひます。



そして今、私たちの何より緊急の重要な課題は、若い人たちが育てる取り組みと生涯養成です。経験豊かな先輩方と、新しい発想や広い視野を持つ多くの若い方が、共に働いて「養成委員会」を充実させていってほしいと願います。

この「運営規約案」は、皆さまからのご提案を、二年近くかけて一つにまとめたものです。この中には、五十年の歴史から学んだこと、多くの信者が実践して積み上げてきたもの、さらにこれからの町田教会によせる希望や願いなどがぎっしり詰まっています。

これほど大勢の信者が携わって作った「規約案」が、信者総会で承認されなかったことを私はとても遺憾に思います。私の力不足を反省し、提案してくださった多くの皆さまに申し訳なく思っております。

確かに規則や約束事などなくとも万事うまく運ばば理想的です。しかし千人もの信者が集う共同体では、少なくともその使命と話し合いのルールと物事の決め方、お金の使い方を明確にしておかなければ必ず混乱と不満が生じます。

私たちの共同体の円滑な運営と成長継続のために、「運営規約」はこれからその必要性和重要性を増すと思います。

とは言え、規約をキリスト

者の心で運用しなければ使命を達成できません。また、いくら時間をかけても完全無欠な規約、しかも全員が賛同する規約は得難く、いずれは共同体の成長に応じて見直しが必要になるものと考えます。

私は年齢を重ねるにつれて思い込みが強くなり、他人の意見に耳をかさず同じ持論を繰り返す傾向があるのを自戒しながら、皆さまの導きとお力添えをお願いいたします。

キリストを頭に戴く私たちの共同体に相応しい「運営規約」の誕生を、皆さまと共に待ち望みます。



2009.3.1 大倉師

ホームカミングデー  
 献堂50周年記念企画の一つ、  
 歴代神父によるミサは、川原謙三師と大倉一美師を相次いでお招きして実現した。

## マリア食堂 支援の会

毎月1回(8月を除く)ホームメイドの洋菓子を販売。収益金や献金(子供達のしほの会など)を「マリア食堂」へ送金しているグループをルポ。今回は支援先へもメンバーの3人と同行して、そちらもルポ。(3世)

**マリア食堂**  
 今はお弁当屋  
 月～金  
 4:50～6:10 PM  
 ステントガラスの窓から販売  
 日雇いの労働者たちに手作りの弁当を安価で提供!

おもに全国から寄せられる献品、献金で成り立っている

当日は99食!

ボランティア募集!  
 Tel. 03-3875-9167

**南地譲 牧師**

10年ほど日雇いの体験をした

洗濯機、掃除機、お掃除機、お掃除機、お掃除機

お掃除機、お掃除機、お掃除機

お掃除機、お掃除機、お掃除機

おいしいと喜ばれるのが一番うれしい!  
 代表の深澤さん

神の愛に導かれて作る意欲がわく!!

メンバーは5人  
 横田さん 横塚さん 村上さん 小林さん (運搬) (会計)

前日から仕込んで30分以上かかる

**今日のメニュー**

玉子焼き弁当	大 380円	小 320円
生たまご弁当	大 220円	中 170円
カレー	大 220円	中 170円
とろろヘルソウ	大 220円	中 170円
野菜がおいしい! フライパン	大 220円	中 170円

今日のメニュー

カレー、とろろヘルソウ、野菜がおいしい! フライパン

成人式  
おめでとう!



2008年度 一粒会献金実績表

1月	95,237円	7月	137,115円
2月	97,843円	8月	44,500円
3月	83,164円	9月	38,860円
4月	58,126円	10月	112,600円
5月	59,883円	11月	42,940円
6月	70,650円	12月	34,800円
総計		875,718円	

犠牲献金

中高生会

- 1月4日 23,057円 (ペロニカ苑へ)
- 2月1日 11,804円 (ペロニカ苑へ)
- 3月1日 17,599円 (ペロニカ苑へ)
- 4月5日 18,060円 (ペロニカ苑へ)

ワンポイント聖書



(171)

前島 誠

人は行いによって義とされるのであって、信仰だけによるものではありません。同様に、娼婦ラハブも、あの使いの者たちを家に迎え入れ、別の道から送り出してやるという行いによって、義とされたではありませんか。魂のない肉体が死んだものであるように、行いを伴わない信仰は死んだものです。

— ヤコブの手紙2章24〜26

前回に引き続いて、『ヤコブの手紙』から一句を引用しました。ご紹介したように、著者はマリアの息子で、イエスの弟に当たる。ペトロの後を継いでエルサレム教会を守り、62年に殉教した人物です。  
● ヤコブは言う。外の何よりもまず実行を

大切にせよ、と。聖書を聞くだけで行わない人は、顔を鏡に映して眺めているだけ。その場を立ち去ると、自分の姿がどうだったか、きれいに忘れてしまう。  
● ヤコブが嫌ったのは、人を分け隔てすることだった。相手がだれであれ、心の中で差別をしてはいけない。たとい律法に忠実に従っても、人を分け隔てするならば、あなたは罪を犯すことになる。  
● 信仰を持っていても、行いが伴わなければ何の役に立つというのか。行いの伴わない信仰は、死んだものに過ぎないのだ。  
— 聖書を手になさる折、この書のこと  
も思い出していただければ幸いです。

「雷の子」次号編集会議予定  
5月24日(日)09時30分  
於会議室  
献堂50周年特集号の影響で、その後の発行時期が少しずつずれため、成人式の写真が今頃の掲載になってしまいました。ごめんなさい。でも、当教会の新成人たちへの祝意に曇りはありません。  
編集スタッフ募集  
「雷の子」の編集スタッフを募集しています。性別、年齢、経験の有無を問いません。教会の広報および機関紙編集に興味のある方、右に記した編集会議にご参加ください。

信者動静

2009年1月～4月

(個人情報のため、削除しています)